

建築設計製図/第四 第2課題

Junior Studio Work: IV-2

団地再生
鳥山住宅の建替えからサステナブルな
集合住宅のあり方を再考する
Housing Revitalized
Exploring Sustainability in Housing
by Respecting the Once-existed
Karasuyama Residences

- 出題者 Yoko KINOSHITA
(Guest Prof.,
Design Organization ADH)
設計総指揮 ADH
Yoshiharu TSUKAMOTO
(Prof.)
- 担当教員 安田幸一 [教授]
塚本由晴 [教授]
川島純久 [助教]
Go HASEGAWA
(Go Hasegawa and Associates)
- ゲストクリティーク
大月敏雄
[東京大学教授]
長谷川憲
[長谷川憲建築設計事務所]

TA
正田真嗣 [M]
関健斗 [M]

敷地条件	
計画地	南鳥山5丁目 前川テラスハウス跡地
敷地面積	約1,000~1,500㎡
建蔽率	60%
容積率	200%

- 課題背景**
- 近代建築の画史的建築遺産として忘れてはならない前川テラスハウスの調査を行い、鳥山住宅の団地史を将来に語り継ぐことのできる集合住宅の提案を行う。
 - 何をサステナブルとするかを定義し、それをテーマとした集合住宅案をまとめる。
 - 都市施設を含む提案にも積極的に取り組んでほしい。

- 提出物**
- A1サイズ2枚に、自分の設計で適切だと思う図面を自由にレイアウトすること。その他、模型、パースなど表現上必要なもの。



課題主旨 「サステナブル=持続可能」という語は、持続可能な建築、持続可能な環境、持続可能な社会などいふように、成熟した日本の21世紀の思想を反映する語のひとつである。本課題では、経済原理の基にすいて建替えが完了した鳥山住宅において、鳥山住宅の団地史を将来に語り継ぐことのできる集合住宅の提案を行う。その際、サステナブルという語の意味も含めて各自が提案する。鳥山住宅は、UR都市機構の前身である日本住宅公団が1958年に建設した分譲団地である。京王線の千歳鳥山駅からほど近い、駅前商店街を南に進んだ数分の立地に、アーバン・ヴィルのごとく都市のコンテクストにすばりと納まった22棟の住棟により構成されていた。この団地の特徴は、日本を代表する建築家でル・コルビュゼに学んだ前川國男が提案したテラスハウスで、22棟の住棟のうち12棟が切妻屋根を特徴とする「前川テラスハウス」であった。課題の敷地は鳥山住宅の北西の角、現在コインパーキングになっている台形型の土地を対象とする。

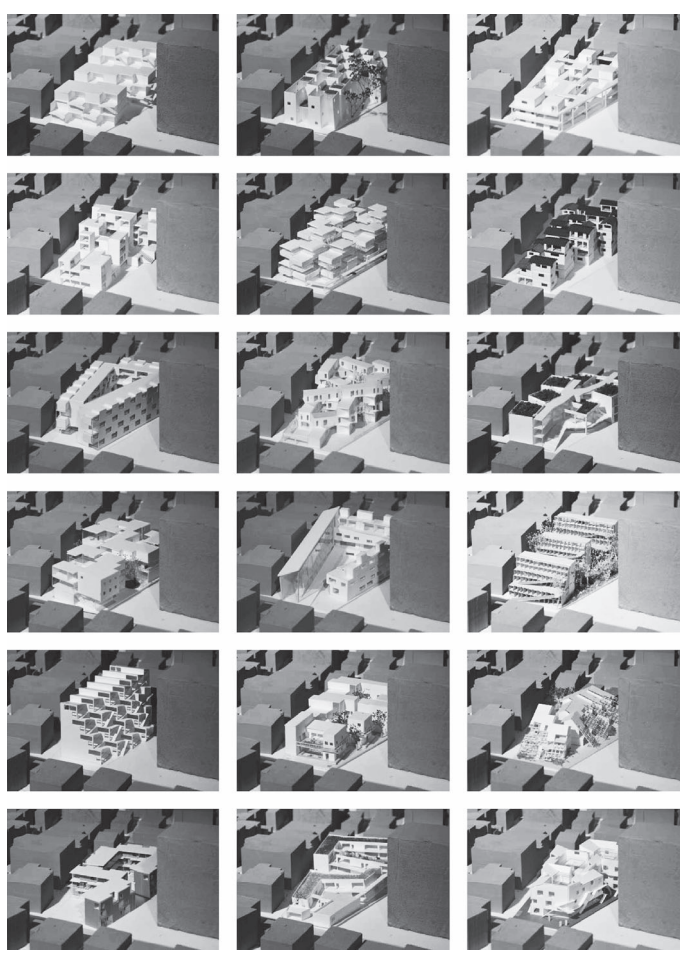
ASSIGNMENT "Sustainability" may be a word that reflects mature Japan's attitude of the 21st century. It is commonly used in such expressions as Sustainable architecture, Sustainable environment, and Sustainable society. In this course, students are to propose a housing complex that will enable the society to pass on the history of once-existed Karasuyama Residences, which have been torn down and rebuilt, on the basis of economic principle in maximizing the land value. The Karasuyama Residences used to be a housing complex built in 1958 by Japan Housing Corporation, the predecessor of Urban Renaissance Agency. It's location being a several minute-walk heading towards south, along the shopping street from Chitose-Karasuyama station on the Keio Line. It had been composed of 22 buildings, fitted nicely into their context as an urban infill. The once-existed complex is known for the terrace houses designed by Kunio Maekawa, a prominent 20th century Japanese architect who studied under Le Corbusier. 12 buildings had gabled roof which was one of the major characteristics of "Maekawa Terrace Houses." The site is trapezoidal in shape, and is located in the northwest corner of the former Karasuyama Residences' site, now serves as public parking.

総評1 本課題は、「サステナブル」というキーワードを掛かりにこれからの住まいについて考えてもらうことが出題者の狙いであった。願わくは、前川テラスハウスがかつて存在した鳥山住宅の地において、歴史の継承も視野に入れた提案とされた。敷地は南側の開口が狭まった台形の土地で、計画的には少々難しい条件であると思われるが、それはかき、型にはまることのないイノベーション豊かな多くの提案につながったと思われる。住戸と共用部との関係や、住戸と街との関係に力を注いだ案が多く見られたことも、コミュニティとのつながりを大切にすべきこれからの集合住宅の在り方を提示してくれるように思われた。高案は個人(個室)が直接社会とつながっており、いったん集住体に入ってからそこに所属する住人同士の共用空間をシェアするという点において、山本理顕さんの保田窪団地の図式を思いおこさせる。奥にある住人のための共用空間へは直接玄関から土足のまよアクセスできるのだが、このひと工夫がポイントであり、結果ユニークで快適なシェア居住を実現している。松山家は子育てを高齢者が、高齢者の買い物などの手伝い、ファミリー世帯が担うことで互いのウィン・ウィンの関係が成り立つ企画である。共有キッチン地域に開くことで住み間も実現する。現代的でリアリティのある提案であった。クアン家は雨水利用が課題であり、平面的にズレながら繋がる多角形の中庭を、上下階が断面的にズレながら繋がるメッシュ状住戸で囲む、不整形な敷地をうまく利用した配置計画である。外壁面積は多いが、多方向に向く壁が作り出すボケツのような外部空間が心地よい。都市のアオスを提供している。また、掲載には至らなかったが濱口家は、外部環境とのインターフェースを、また住戸内の部屋と部屋との関係を、引き戸という要素のみで徹底追求した。明瞭でインパクトある提案として印象に残った。 [木下康子]

総評2 かつての公共団地設計とは、家族と住戸を1対1に対応させる、標準化された住棟をうまく敷地に馴染ませることであった。標準化を超えた多様性を家族が獲得しつつある現在、住戸平面上でできない何がしかのまとめで、敷地全体を使って複層的に仕組むための提案が、この課題に求められたと思う。3つの家を繋ぐ松山家、60度を使って繋ぐクアン家、それを垂直展開した高案は、いずれも「ゆるま」なまわらな、ひらくことを、敷地全体を活かしながら追求した結果、それぞれがめざす集住の新しい「型」にたどり着いている。 [大月敏雄]

総評3 今年は鳥山住宅の完成からちょうど60年、また僕自身が学部ともに集合住宅の課題をやってからちょうど20年になる。時代の変化に敏感に反応してきたのが集合住宅だから60年前にも20年にもあが得なかった新たな価値観に期待したのだが、高齢者住宅やシェアハウスにはその兆しを感じたものの、多くの家がリビングvsプライベートルームという古典的な空間図式に囚われていた。そのなかで高案は複数の中庭と外庭をうまく配置してパブリックコモン、プライベートコモンといえる魅力的な空間をつくっていた。 [長谷川憲]

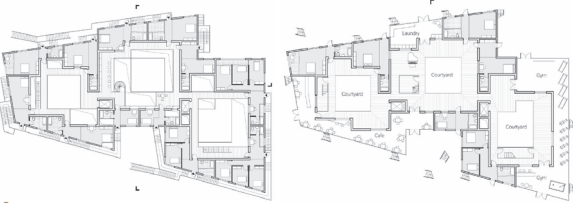
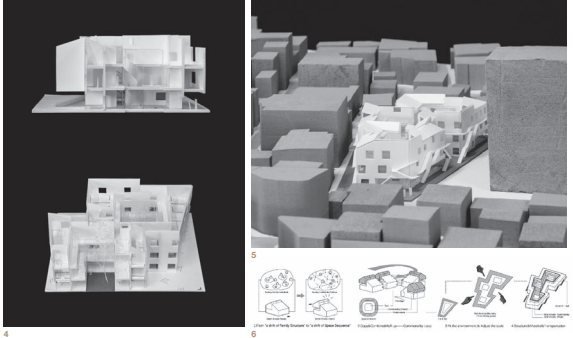
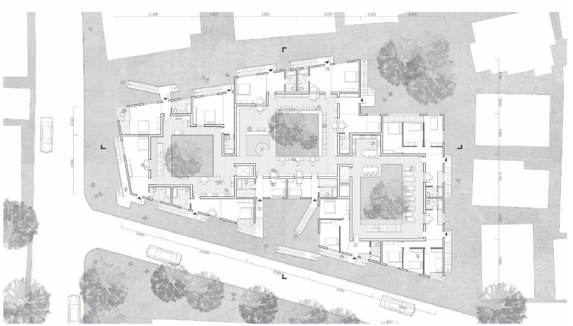
建築設計製図 第四 第2課題 Junior Studio Work: IV-2 団地再生 Housing Revitalized



模型写真(全長)

建築設計製図 第四 第2課題 Junior Studio Work: IV-2 団地再生 Housing Revitalized

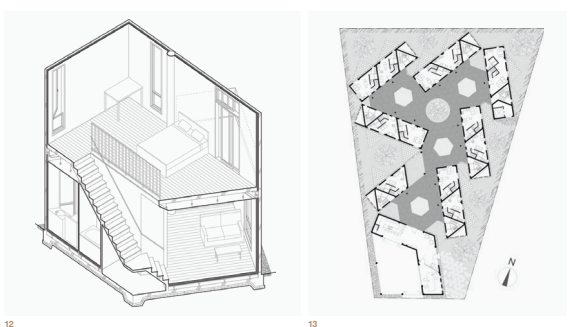
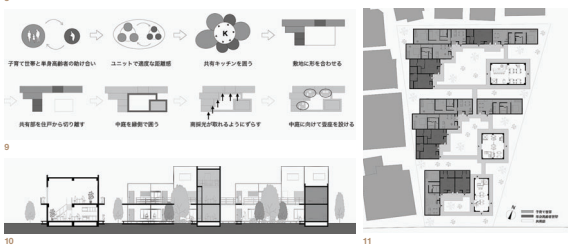
Relationship Redefined 高小涵 GAO Xiaohan [優秀賞]



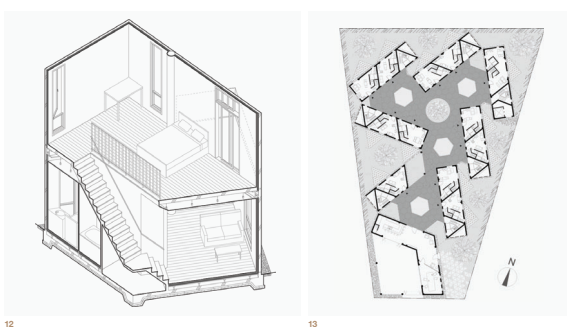
- 1 2階平面図
- 2 断面図
- 3 立面図
- 4 断面(模型平面)
- 5 模型写真
- 6 ダイアグラム
- 7 1階・3階平面図

建築設計製図 第四 第2課題 Junior Studio Work: IV-2 団地再生 Housing Revitalized

Children with Elderly People 松山帆帆 Shiho MATSUYAMA [優秀賞]



Courtyard クワンシェンニコル Nicole KUAN Shien [優秀賞]



- 12 住戸タイプ
- 13 1階平面図
- 14 断面図

建築設計製図/第四

第1課題

Junior Studio Work: IV-1

リサイクルセンター

ゼロ・ウェイストセンター・ごみ中間処理施設と
サスティナブルセンターの複合建築

Recycling Center
Zero Waste Center:
Complex building of garbage intermediate
treatment facility and sustainable center

- 出題者 Hiroshi NAKAMURA
中村拓志 [非常勤講師]
NAP 建築設計事務所
担当教員 Norihisa KAWASHIMA
安田幸一 [教授]
Yoshiharu TSUKAMOTO
塚本由晴 [教授]
Takaki SAKAUSHI
川島龍久 [助教]
Taku SAKAUSHI
ゲストクリエイティブ
坂牛卓
[東京理科大学教授]
ルイーザ・カルダス
[カフル・アス・ナ
バーヴー校教授]
Masato SHODA [M]
Kento MINAMI [M]

TA
正田真樹 [M]
南健斗 [M]

敷地条件
計画地 徳島県勝浦郡上勝町
大字福原字下日田 18-1
指定なし
用途地域 指定なし
防火地域 指定なし
その他の
制限事項 都市計画区域外
敷地面積 5,556m²

- 課題条件
- 1 建築面積 950m² [建築規模: 地上1階
構造: 木造(一部鉄骨造も可)]
 - 2 先に平面や形を決めて、それを可能とする
建材を調達する手法でなく、身近にある素
材を拾って、そこから平面や空間を形成する
 - 3 リサイクルショップや廃材の修理、商品開発
ができる作業スペース、3Rのライフスタイル
の提案などの展示、研修施設などを設け、
町民がごみステーションに通うことが楽し
く、色々な知識の学び交流できる施設を
目指すこと。

- 提出物
- A1サイズ1枚以下全てを重層的にレイ
アウトすること。
配置図兼1F平面図 S=1:100 [細計図もし
て任意のゴミ(廃材)を使った建築の詳細
図 S=1:20] その他、模型、パースなど表
現上必要なもの



課題主旨 建築がゴミの問題を解決する一助とならないうち、先に平面や形を決めて、それを可能とする建材を調達する手法ではなく、身近にある素材を見つめ、そこから平面や空間を形成すること。最初にゴミ(廃材)を各自1つ選び、その寸法や重さ、強度をよく理解し、それを用いたリサイクルセンターを設計しては、家具のレベルではなく、建築的に再利用した家を期待している。
●本プロジェクトは、ゼロ・ウェイストの理念に沿った人材育成や地元と、住民と企業等の連携を促進させ、ゼロ・ウェイストの取組を通じた地方における循環型社会のモデル構築を目指している。ゴミを資源と捉え、ゴミの分別を行うだけにとどまらず、コミュニケーションの活性化や様々な先駆的な取り組みができる場所へとステップアップさせる。リサイクルショップや廃材の修理、商品開発ができる作業スペース、3Rのライフスタイルの提案などの展示、研修施設などを設け、町民がごみステーションに通うことが楽しく、色々な知識の学び交流できる施設を目指すこと。

ASSIGNMENT Can architecture help solving garbage problems? We do not design the plan and shape first and then to find materials that fit to the building, but understanding familiar material then to form plans and spaces. First of all, please select a garbage (waste material), understand its size, weight and strength well, and design a recycling center with it. We are expecting you to have an idea which garbages are used to fit to architectural scales rather than furniture's.
This project aims to foster human resources for the zero-waste philosophy, to promote cooperation between residents and companies, and to build a model of a recycling-ori ented society in rural areas through zero-waste efforts. As we grasp garbage as resources, we design a recycling center which do not just separate garbage, but activate communications and various pioneering activities. Students are to propose a facility where town people feel fun to go and learn causal knowledge with such as recycling shops, workshops capable of product development and waste material repairing, exhibitions of 3R lifestyle suggestions, and training facilities.

総評1 本課題はゴミを素材と考えて向き合い、対話することから始まった。そしてその形状や特徴を自ら発見し、建築にすることが目標であった。そもそも初歩的な建築は、最初に素材が目前にあって、それらが安定する集合の仕方を試行することから始まった。それかいつの間にか、初めにコンセプトや機能があって、そこから形やプランを決めて、設計の終盤に詳しく素材を決め、ようやく発注時に材料を調達するという手法が一般的になってきた。そのように作られた建築は、素材が概念の従属物となり抑圧されているように、いまいちとしていない。そして素材の形状や機能に紐づく身体性や人のしぐさが欠如している。学生たちはこの課題を通じて、素材ごとに異なる合理性、機能性があることを肌で感じてはしった。慣れない手法に戸惑いもあったかと思うが、その中でも素材の特徴をよく捉え、部分から全体へと良く繰り返された作品が幾つかみられた。岡山家の「言の葉の森」は本のページを重ね合わせることで生まれる摩擦力を利用し、水平力を担保させ、何冊もの本を積み重ねることにより今までのようなこの魅力的な光景を生み出していた。構造と素材が一体となった提案で、動物の巣に似たすがすがしさが、高く評価した。渡邊家の「上勝リサイクルフォレスト」はプランニングが非常に上手く、学校の机に似る人の思いやしぐさが連なりながら濃密な空間が生まれている。また、全体をバランスよくまとめ上げていた。緒籠家の「流れる、溜まる」は浴槽の持つ形状から派生する人のしぐさをよく考案した案であった。それが風などの環境や照明の提案にもつながっており、美しい提案であった。椎野家の「made of guardrail」はガードレールを用いた案であり、敷地のレベル差を活かし、折半構造を持った大屋根を地面に突き刺した大胆な案であった。構造と空間と素材が一体となり魅力的であった。木内家の「polyscape」はポリタンクをベースにその中に土や水などのマテリアルを充填させることで環境に配慮した建築を実現していた。序盤からポリタンクという素材を選択しており、最終成果物としてどのようなことができるか不安もあったが、粘ってよく手を動かしていたことに好感を持った。 [中村拓志]

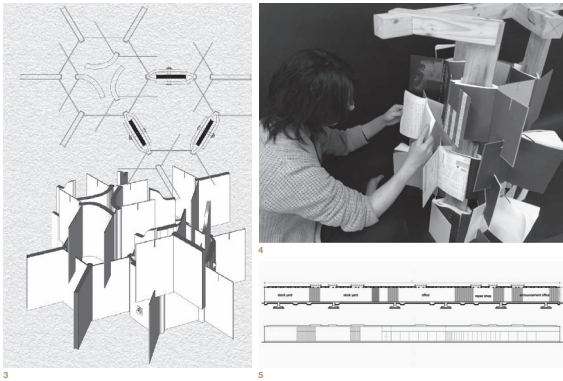
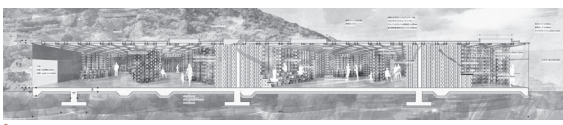
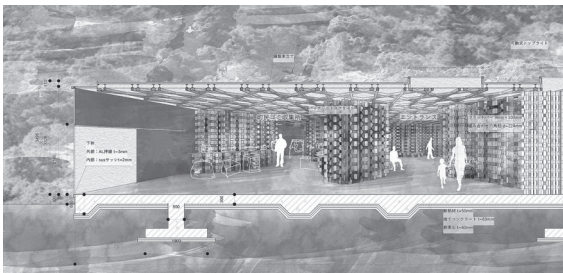
総評2 その昔リサイクル工場を設計している時、クライアントにリサイクル工場に集められるものは「ゴミ」ではなく「資源」と教わった。昨今「ゴミ(資源)を再利用するのは当たり前」となった感があるが、それはもったいないという観点からではなく、資源として利用するというスタンスで取り組むものなのだと思ふ。ということはそれを建築に利用した時に「ゴミ」なんだからこんなふうというイクスキューズは通用せず、資源として適正に有効に美しく使わなければならない再利用したことはならない。今回幾つもの案にはそうした意図が見えかつその材料の保持する時間が表出する素敵なものになっていた。 [坂牛卓]

建築設計製図 第四 第1課題 Junior Studio Work: IV-1 リサイクルセンター Recycling Center

言の葉の森

岡山山斗
Art MARUYAMA

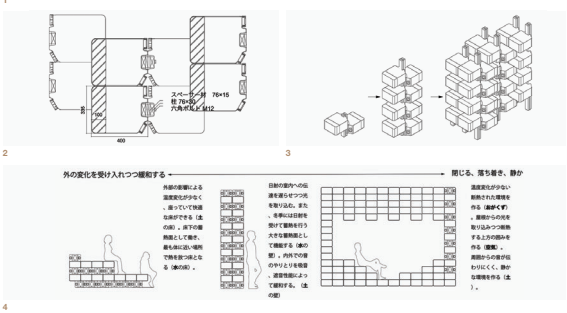
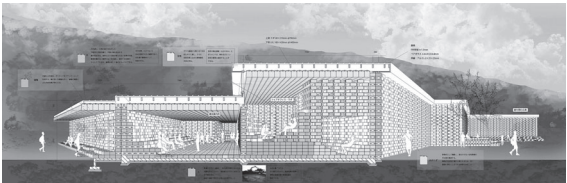
[優秀賞]



Poly-Scape

木内健斗
Kento KIUCHI

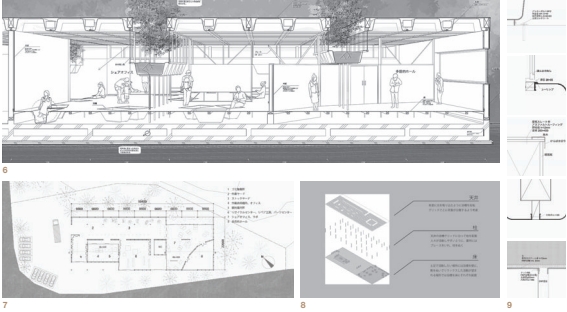
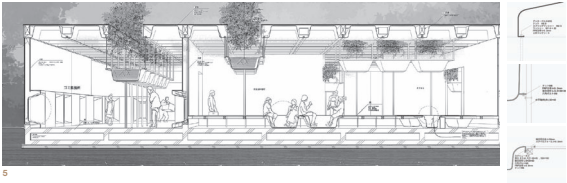
[優秀賞]



流れる、溜まる

緒籠ゆり
Yuri KOKETSU

[優秀賞]

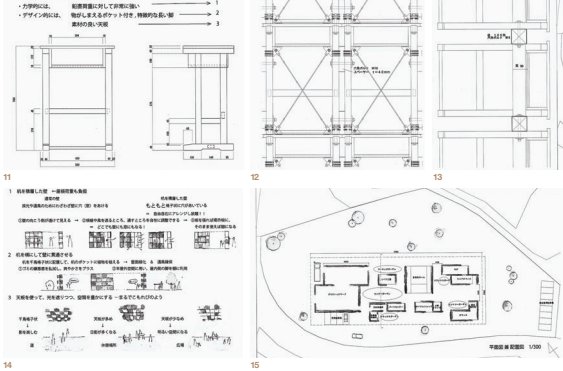


建築設計製図 第四 第1課題 Junior Studio Work: IV-1 リサイクルセンター Recycling Center

上勝リサイクルフォレスト

渡邊幸
Miyuki WATANABE

[優秀賞]



guardrail

椎野光咲
Misaki SHINO

[中村賞]

